

# 芎帰調血飲で血圧が安定した更年期障害の一例



陣内 厚子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

2009年 獨協医科大学医学部 卒業  
 2010年 獨協医科大学病院 研修  
 2012年 東京女子医科大学東医療センター 内科  
 2014年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所

## はじめに

漢方外来で血圧の相談は多く、特に更年期女性の自律神経障害が背景にある例が多い。現代治療による降圧管理は必要だが、コントロールが困難な症例や降圧薬による副作用が強い症例では漢方治療が大いに役立つと考える。

芎帰調血飲は産後の処方として知られているが、生薬構成から考えても、産後に限らず広く婦人科系の疾患に応用できると考える。生薬数が多く、気血水のバランスがとれているところから、加味逍遙散との鑑別がポイントとなる。

## 症例

**症例**：51歳 女性、介護職。

**主訴**：夜に血圧が上がる、冷える、不安感、動悸、不眠。

**現病歴**：X-1年11月から高血圧の診断で降圧薬等による治療が開始された。X年に冷え・不安感・不眠・動悸が増悪し、更年期障害と不眠症の診断にて西洋医学的治療がなされたが無効であった。夜間首筋に不快感(蟻走感)を感じ、収縮期血圧は180mmHg程度に上昇した。かかりつけ医が漢方薬も処方したが無効であり、X年11月に当院を初診した。

**初診時自覚症状/現症/東洋医学的所見**：図1に示す。虚証の閉経期女性で気うつがあり、疲れやすい・立ちくらみ・眠りが浅い・冷える・不安感と気血両虚が目立ったことから、芎帰調血飲を処方した。

**臨床経過(図2)**：芎帰調血飲の服用1週間で血圧が安定し、

併用していた西洋薬の服用を中止、2週間で動悸が減り気分も楽になった。4ヵ月後には不眠以外の症状は気にならなくなり、血圧も安定したまま維持できている。芎帰調血飲の単独処方では以後は良好に経過している。

### 図1 症例 51歳 女性

#### 主訴

夜に血圧が上がる、冷える、不安感、動悸、不眠。

#### 現病歴

- X-1年3月の月経を最後に閉経。同年11月から高血圧の診断で、オルメサルタンメドキシミル・アゼルニジピン配合錠、カリジノゲナーゼ錠にて治療が開始された。
- X年、冷え・不安感・不眠・動悸が増悪し、更年期障害と不眠症の診断でエストラジオール外用ゲル剤、ロルメタゼパム錠による治療が開始されたが、改善しなかった。
- 夜間首筋に不快感(蟻走感)を感じ、収縮期血圧は180mmHg程度に上昇している。かかりつけ医が漢方薬も処方したが効果を感じず、X年11月に当院を初診した。

#### 初診時自覚症状

食欲低下、寝つきが悪い、眠りが浅い、寒がり、冷える(手足)、疲れやすい・だるい(全身)、不安感、焦燥感、無気力、ゆううつ感、イライラする、立ちくらみ、身体の不快・違和感、首筋こり、肩こり、動悸、夜間頻尿(2回~)

赤字は○項目

- 食欲低下 …………… 脾虚?
- 疲れやすい、だるい、冷える …………… 気虚
- 眠りが浅い、不安感、立ちくらみ、(冷え) …………… 血虚
- 不安感、焦燥感、ゆううつ、イライラ …………… 気うつ
- 閉経期、こり、(冷え) …………… 瘀血

#### 現症/東洋医学的所見

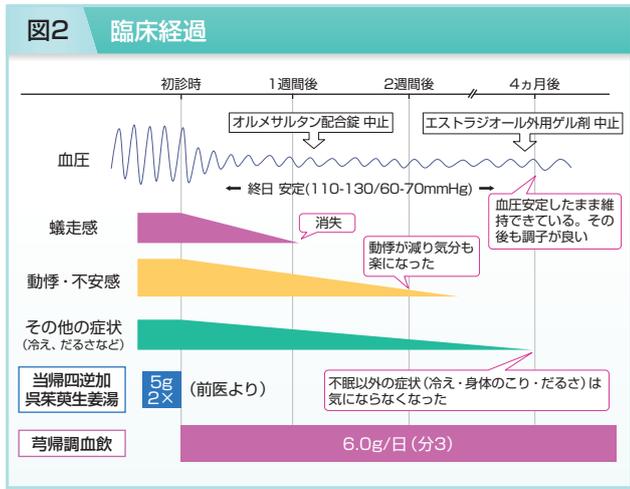
身長：168cm、体重：49kg、BMI：17.4、  
 血圧：116/85mmHg、脈拍：100回/分整

脈診：緊張は中等度、浮 数

舌診：淡紅色、舌質は中等度で乾燥、薄白苔、亀裂(±)、舌下静脈怒張(++)

腹診：腹力やや軟弱で腹壁は薄い、腹部動悸(+)、小腹不仁(+)

瘀血はあるが  
虚弱な印象…



考察

芍婦調血飲

芍婦調血飲は、原典の『万病回春』に芍婦補血湯の名で記載されている。構成生薬は、当帰・川芎・熟地黄・白朮・茯苓・陳皮・烏薬・香附子・乾姜・益母草・牡丹皮・甘草(姜棗煎)で、気血水のバランスの良い配合となっている。

漢方一貫堂医学では、「芍婦調血飲の腹証は、やわらかな腹証で腹内に瘀血の存在はほとんど認められない」とあり、本症例も腹診で瘀血の圧痛は認めなかった。

矢数道明は『新版漢方後世要方解説』で、「芍婦調血飲は八珍湯より芍薬と人参を去り、牡丹皮・益母草の駆瘀血剤、香附子・烏薬・乾姜の順気健胃剤を配合したものであり、気血両虚はあるものの八珍湯や大補湯ほどの虚状のないものに広く用いられる」と述べている(図3)。

加味逍遙散との鑑別

本症例は不安感が解消され、自律神経の乱れが整ったことで、血圧の安定に繋がったと推測した。補血活血に理気作用も含む処方に、虚証の更年期障害に頻用される加味逍遙散が鑑別に挙げられる。両者の理気作用を比較すると、

加味逍遙散は柴胡剤で“肝気”の鬱滞を治す、気(血)を降ろして“熱”を冷ます効果を含む。芍婦調血飲は香附子・烏薬・陳皮と、気の巡りを優しく改善させる印象があり、「理気作用」にも違いがあると思われる。

寒熱の鑑別では、芍婦調血飲は身体を温める生薬が大半で構成されているが、加味逍遙散は身体を温める生薬だけでなく熱を冷ます生薬も配合されているように、芍婦調血飲は加味逍遙散よりも身体を温める処方である。

芍婦調血飲はその生薬構成から加味逍遙散と同様に様々な症状に応用できると考えられる(図4)。

図3 芍婦調血飲



芍婦調血飲は、八珍湯より芍薬と人参を去り、牡丹皮・益母草の駆瘀血剤、香附子・烏薬・乾姜の順気健胃剤を配合したもので、八珍湯や大補湯ほどの虚状のないものに広く用いられる。

気血両虚はあるが

新版漢方後世要方解説. 矢数道明. 101.

図4 芍婦調血飲と加味逍遙散の鑑別

芍婦調血飲	加味逍遙散
気血水バランスよい生薬構成 血を補い巡らせる生薬と気を巡らせる生薬を多く含む	
身体を温める作用が強い	温める作用と熱を冷ます作用が いずれも調和している
理気薬はやさしく気を巡らす イメージ… 不安感>イライラ	理気薬は肝気の鬱滞を去り降気・ 清熱的作用も含む… イライラ>不安感
気血を補う生薬が多い	

生薬構成から、芍婦調血飲も加味逍遙散のように様々な症状に応用できるのではないかと考えた…

Discussion

木村: 芍婦調血飲と加味逍遙散の鑑別について、先生は臨床においてどのあたりにポイントを置いていますか。

陣内: 芍婦調血飲は優しく気を巡らせるような作用があり不安感が目立つ方、また加味逍遙散よりも気血両虚を補う作用があるので、虚労の方に用います。

木村: 虚証の不安感では加味帰脾湯との鑑別も必要になるとは思います。先生はどのように鑑別されていますか。

陣内: 本症例のように冷えが目立ち、熱症状がない方には芍婦調血飲のような温性の処方の使用を考えました。加味帰脾湯は参考剤であるため、虚労によって精神神経症状が現れているような方によいと思います。